

まちの雑誌をつくろう

真鶴町立まなづる小学校

実施学年：5年
 児童数：61人（2学級）
 実施教科：総合的な学習の時間
 実施時間数：47時間



学習のねらい

- 1 自分たちの住んでいるまちに関心を持ち、真鶴の良いところ・好きなところを見つけようとする。
 - 2 まちの探検やインタビュー活動を通して、情報収集の仕方やそのまとめ方が分かる。
 - 3 展示発表会や雑誌づくりを通して、自分たちが普段暮らしているまちの魅力を発見するとともに、それを伝えることができる。
- 真鶴町は、「美の基準」と呼ばれる景観条例をつくり、全国で最初に景観行政団体になり、地域のまちづくりに取り組んでいる。また、真鶴の教育重点施策の一つとして、ふるさと教育の充実がある。

学習活動

- 1 オリエンテーション
- 2 まち探検に向けての校内での練習をする。
- 3 ワークショップ（筑波大学・住団連の方々）を開く。
- 4 まち探検①に出かける。（まなづる写真館）
- 5 まち探検②に出かける。（‘お気に入り真鶴’探しゲーム）
- 6 探検のまとめをする。
- 7 中間発表会を開く。
- 8 インタビューに出かける。（真鶴の働きマンに聞こう）
- 9 インタビューしたことをまとめる。
- 10 学習発表会での発表に向けての準備をする。
- 11 学習発表会を行う。

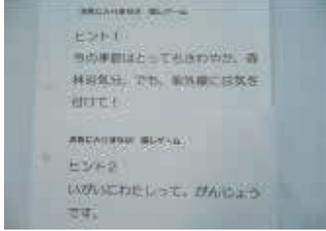
準備品

- | | |
|----------|--------|
| ○真鶴町の地図 | ○ダンボール |
| ○探検ボード | ○模造紙 |
| ○デジタルカメラ | ○写真 |
| ○カード | ○パソコン |

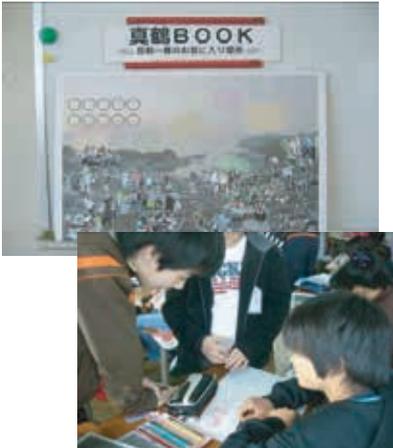
実施場所

町内 ワークルーム 教室 情報室（パソコン） 体育館

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
ワークルーム 3時間	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ○まち探検に向けての練習(校内探検) ○まち探検のグループ作り 		<p>これからどんな活動が始まるのか不安そうな様子。まち探検にむけての練習でゲームを取り入れた活動は、楽しそうにやっていた。</p> <p>ゲームは、担任が校内のお気に入り場所の写真を撮り(まなづる写真館)、ヒントカードを渡し、それをもとに担任のお気に入りの場所を探す(‘お気に入り真鶴’探しゲーム)ことをやった。</p>
ワークルーム 2時間	<ul style="list-style-type: none"> ○筑波大学・住団連の方との顔合わせ(オリエンテーションを含む) ○まち探検グループごとの相談 		<p>筑波大学の学生から、雑誌完成までの流れや1学期に行うまち探検での写真の撮り方、ヒントカードの書き方などこれから子どもたちが行うことのモデルを提示してもらった。子どもたちから早くまちに出たいという声が聞けた。また、本当に雑誌を作るんだという実感も少しわいたようである。</p>
町内 情報室 ワークルーム 4時間	<ul style="list-style-type: none"> ○まち探検(まなづる写真館) ・最終目的地まで歩きながら、まちの楽しいもの、おもしろいもの、お気に入りのものなどを見つけ、写真に撮ってくる ・「お気に入り真鶴探しゲーム」に向けてヒントカードづくりをする 		<p>グループの中で、カメラマン、モデル役を交代で行い楽しく活動していた。</p> <p>まちの楽しいもの・おもしろいもの・お気に入りのものを見つけるということで、何気ないまちのよさというところにはなかなか目が行きにくかった。</p> <p>子どもたちが見つけて名付けたまちのよさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじさん立ってる像 ・サスケ竹サーフィン ・お花につつまれたようせい
町内 情報室 ワークルーム 3時間	<ul style="list-style-type: none"> ○まち探検(‘お気に入り真鶴’探しゲーム) ・前時につくったヒントカードをもとに、まち探検をする。ヒントカードに書いてある場所やものなどを探しに行く。見つけたら、その場で写真をとる。 ・戻ったら答え合わせをする。 		<p>ヒントカードをランダムに渡し、そこに書いてあるヒントを見て、お気に入りの場所やものを見つけてでかけた。すぐに見つけられるものもあれば、なかなか見つからないものもあり、苦労したグループがあった。</p>

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>ワークルーム 体育館</p> <p>9時間</p>	<p>○まち探検のまとめ ○中間発表会の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッピング用の地図は、筑波大学の学生に作っていただいた。 ・まち探検に行った地域について、グループごとに三角掲示板をつくり、その掲示物をもとに発表を行う。 <p>○中間発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッション形式で、繰り返し発表する。クイズに選んだ場所の紹介、まち探検のときに発見した自分のお気に入りの場所、まち探検の感想などを発表する。 <p>○中間発表会の振り返り</p>		<p>○筑波大学の学生に掲示物の見本を作っていたので、どんなものを作っていけばよいのかがよく分かって活動できた。</p> <p>○自分たちが探検したところのおもしろいものや発見したものを写真に撮り、それについて現物を使いながら発表できた。</p> <p>○学校公開日に発表することができたので、地域の方にも聞いていただくことができた。また、ポスターセッション形式をとったので、発表を繰り返すうちに上手にできるようになった。</p> <p>○子どもたちの感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「友達の発表を聞いて、初めて知ることがたくさんあった。まだまだ知らないことがあるんだなと気付いた。」 ・「きれいな風景にたくさん出会った。どれも他の町にはない景色だと思った。こんなきれいな景色がある真鶴はいいなと思った。」
<p>ワークルーム</p> <p>3時間</p>	<p>○2学期の計画を立てる。 ○まちの働きマンにインタビューするためのグループ作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おまわりさん・漁師さん ・石屋さん　・旅館の女将さん ・新聞屋さん　・ケーキ屋さん ・消防士さん　・町役場の職員さん ・郵便局長さん・干物屋さん ・みかん農家さん <p>○インタビューの質問を考える。</p>		<p>○まちの魅力を働きマン(大人)から聞き出せるような質問づくりに苦戦していた。</p> <p>○まちの働きマンは、「まちの中で働いている姿が見える人」「何らかの形で景観を担う人」と捉え、真鶴町の中でのインタビューの対象として考えられる方をリストアップし、最終的に、子どもたちに希望を聞いてグループを作った。</p>

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>町内 情報室 ワークルーム</p> <p>5 時間</p>	<p>○まちの働きマンにインタビューに出かける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューする内容は、教師側から指定したもの（共通質問）と、子どもたちが聞きたいこと（自由質問）を混ぜた。 ・働きマンへのアポイントは、筑波大学の学生にお願いした。 <p>○インタビューのまとめ</p>		<p>○子どもたちの感想 「同じ働きマンでも職業によって好きな所や自慢できる所が違うということが分かった。」「港の景色には興味がなかったけど、すごく好きと言っていたので、もう一度じっくり見てみたい。」</p> <p>○大人が感じるまちのよさは、地域や周辺になじんだ景観や日常の風景、町の人たちの人柄にふれていて、インタビューを通して、自然・人々・道・店等すべてがあって町ができていていることに気付いた。</p>
<p>ワークルーム 教室 体育館</p> <p>10 時間</p>	<p>○学習発表会に向けての準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの働きマンにインタビューしたことを劇風にし、大人の中から見たまちの魅力を伝える。 ・発表時に使うプレゼンテーションソフトを使っての資料作成は、筑波大学の学生にお願いした。 <p>○学習発表会 ○学習発表会の振り返り</p>		<p>○中間発表会では、子どもたちの目から見たまちの魅力を発表し、今回は大人からみた町の魅力を伝える機会となった。それぞれの職業の人になりきってまちの魅力を伝えることは難しかったようだが、堂々と発表することができた。</p>
<p>ワークルーム 教室</p> <p>7 時間</p>	<p>○雑誌づくりに向けての準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑誌に載せるまとめの文を書く。 ・雑誌の題名を考える。 ・雑誌の題名と表紙を選ぶ。（投票で決める。） ・イラストをかく。 ・仮完成した雑誌を見ながら、編集後記を書く。 		<p>○1 学期、2 学期にやってきた活動を振り返りながら、雑誌に載せるコメントを書いた。インタビューを通して感じた真鶴の魅力をまとめることには、少し苦戦していた。</p> <p>○雑誌名や表紙を選ぶとき、雑誌に載るイラストをかくときには、自分のアイデアが採用されるようにと熱心に取り組む姿が見られた。また、仮完成したものを目にしたときは、ここまでの雑誌に仕上がるのかととても喜んでた。</p> <p>○子どもたちの感想 「働きマンへのインタビューの内容から、それぞれの働きマンが感じる真鶴の魅力を短い言葉でまとめることが難しかった。」</p>
<p>ワークルーム</p> <p>1 時間</p>	<p>○雑誌完成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できあがった雑誌の引き渡し 		<p>○筑波大学の学生から、一人ずつ雑誌と修了証書を受け取った。雑誌の完成を心待ちにしていた子どもたちは、自分が手がけたページをじっくり読んでいた。</p> <p>○子どもたちの感想 「真鶴のいい所がよく分かるような雑誌ができたと思う。」「みんなの意見がいっぱい詰まっている真鶴BOOKができたと思う。だから、とってもうれしい。」 「たくさんの人に見てもらいたいな。」</p>

児童の作品

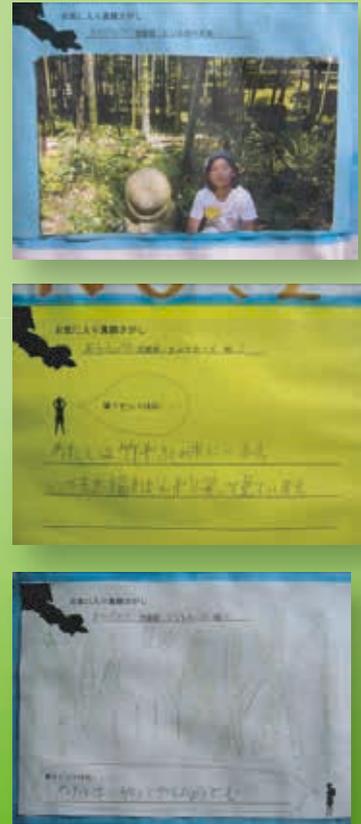
中間発表会で使った三角掲示板



できあがった雑誌



ヒントカード



先生の声

実施に当たり工夫した点 苦労した点

- 子どもたちには、真鶴には「美の条例」というきまりがあるということを紹介した。観光名所のようなものを扱うのではなく、何気ない日常のまちの風景の美しさやよさに気付ける取り組みということで、子どもたちへの投げかけにどのような言葉で伝えたらよいかとても難しく感じた。
- 大人の感じる「まち」のよさと子どもの感じるよさでは違いがあるので、目的の確認や探検で見てる視点、インタビューで聞く内容等には、教師側からのアドバイスを必要とした。
- 活動が1年間という長期にわたるものなので、実際にまちに出て、自分の目で見つけたり、確かめたり、話を聞いたりという体験活動を取り入れ、子どもたちの意欲が継続するような学習計画を立てていった。
- まちに出かける際には、安全面を考慮し、大学生や支援の方にもグループに入ってもらい、一緒に探検やインタビューに出かけた。
- 中間発表会や学習発表会、雑誌づくりという目的をもち、校内や校外にも活動のアピールができるようにした。

児童・生徒の反応

- 初めは、「雑誌作りなんてできないよ。」「えっ、大変そう。」という声と、「雑誌を作るなんてすごい。」「どんな雑誌になるか楽しみ。」というように子どもたちの気持ちも分かれていた。
- 自分の足でまちを探検したことにより、今まで気付かなかったことや初めて知ったことがあり、大変驚いていた。また、働きマンにインタビューして、町の人たちがいろいろな工夫をしながら町を支えていることに気付くことができたようだ。
- 中間発表や学習発表会を通して保護者や地域の方に発信できたことで、自分たちの活動に自信をもてるようになってきた。

教師の変化

- 探検やインタビューなどの活動を通して、まちの魅力を改めて感じる事ができた。
- 子どもたちと繰り返しまちに出向いたことによって、今まで気付かなかったことに目を向けたり、耳を傾けたりする姿を目の当たりにすることができた。また、秘密基地を作っていたり、抜け道を知っていたり、今も昔も変わらない子どもの姿があるということを感じる事ができた。